

折に触れ 四字熟語

NO. 280 『禍福糾纏』 かふく きゅうぼく

< 意味 > 災いと幸せは順繰りにやってくるということ。もとは、より合わせた縄のように禍福は表裏の関係で、災いが福に転じ福が災いに転じてきわまりがない意。
一般には「禍福は糾あざなえる纏なわのごとし」と用いる。

< 出典 > 『漢書』賈誼伝「夫れ禍と福とは何ぞ糾あざなえる纏なわに異ならん」

語 釈：「糾纏」は、より合わせた縄。

一 言：元旦に起きた能登半島地震は、日を追うにしたがって死傷者、被害が増加・甚大になっています。テレビの報道で、被災者の方がインタビューを受け「なんで元旦に地震でこんなことされるのかな」と声を詰まらせ悲嘆にくれていました。今の幸せが一瞬に災禍に変化する、人の世はまさに「禍福糾纏」なんだと実感します。

参照文献：岩波書店「四字熟語辞典」